



令和5年度第2回 刈谷市国際化・多文化共生推進委員会 議事録

■ 日 時 : 令和5年10月27日(金) 13時30分～15時00分

■ 場 所 : 刈谷市役所7階701会議室

■ 出席者

所 属	氏 名
愛知淑徳大学 名誉教授	榎 田 勝 利
国立大学法人愛知教育大学 国際企画課	高 木 遠 慧
刈谷市教育委員会 学校教育課	清 水 都世子
愛知県国際交流協会 交流共生課	杉 山 美 紀
刈谷市国際交流協会	西 村 日出幸
一ツ木自治会	及 川 啓 太
株式会社ベルテック	小 池 ソニア
認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター	木 村 隆 彦
S B K	川 口 ビバリ
市民委員	ファム ティ ホン トウイ
刈谷市 市民活動部 部長	近 藤 和 弘

■ 欠席者

株式会社デンソー 総務部刈谷総務人事室	北 野 達 生
------------------------	---------

■ 事務局

市民活動部 協働推進監兼市民協働課長	渡 部 貴美子
市民活動部 市民協働課長補佐兼協働推進係長	小 原 崇 照
市民活動部 市民協働課 協働推進係 主査	眞 野 浩 志

市民活動部 市民協働課 協働推進係 主事	木 下 和 希
NPO 法人 NIED・国際理解教育センター 事務局長	川 合 眞 二

■ 配付資料

次第、名簿

資料 1 第 2 次刈谷市国際化・多文化共生推進計画【最終計画案】

資料 2 令和 5 年度第 2 次刈谷市国際化・多文化共生推進計画策定スケジュール

■ 議事録

1. 開会

◇出欠席者の確認、配付資料の確認

◇委員長あいさつ：本年度は本委員会を 4 回行う予定で、本日は最終的な第 2 次計画案のまとめの段階である。日本における外国人比率は、現在は訳 2.5% であるが、将来的（約 50 年後）に 10% 以上まで上昇すると予測が出された。日本では生産年齢人口が減ってきていて、生産能力が減少していくことが予想されているが、外国人労働者によって、減少率が緩和されているのが現状である。G7 の国々は現状で 13%（イタリア）～20%（カナダ）と外国人の割合が高く、日本は例外的に割合が低い国だったが、今後は G7 の他の国と同様になってくるだろう。背景としては、少子高齢化、外国人労働者枠の拡大、留学生の増大がある。留学生はコロナの影響で、20 数万人と減っていたが、国は 10 年後に 40 万人程度にするとしており、それを受け入れるのは大学や自治体等の地域である。これらの結果、国内において社会的問題が起きる恐れがある。行政としても、そのことを踏まえて施策が行っていくことが必要である。国全体の動向を踏まえて、市としてどういう施策を行っていったらよいかを考えるのが、本計画改訂の意味である。日本人と外国人が住みやすい安全なまちにしていくために、どうしたらよいかについて意見を出してもらいたい。

2. 議題

（1）第 2 次刈谷市国際化・多文化共生推進計画の計画案について

◇事務局が、資料 1 をもとに、第 2 次刈谷市国際化・多文化共生推進計画の計画案について説明した。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委員長：脚注に用語解説があるが、本推進委員会としては、こうした解釈で使っていくということである。

委員：P. 38、「01 日本語教室の開催」について、国際交流協会では従前からボランティアによる文法積み上げ学習の教室を行ってきた。国としては、必ず必要な日本語をまず覚えてもらおうという初期日本語教室を推進している。平成 31 年度以降、愛知県とと

もに刈谷市でも対話型の初期日本語教室を行ってきており、その必要性が理解されてきていると思う。いろいろな日本語教室のあり方について盛り込んでもよいと考えるがどうか。また、大人向けとする意図を教えてください。参加実人数の目標値が低いように感じるが、ボランティアによる文法積み上げ学習の教室の目標値への計上について教えてください。

事務局：P38の「外国人市民の日本語能力や学習目的などに応じた」の箇所、対話型教室に関する内容を記載するかどうかは検討したい。「大人向け」というのは、P42の「12教育・キャリア形成に関する支援」に記載の、子ども向けの日本語学習に関する施策との区別のために記載しているが、今後、表現は検討したい。目標値の現状は、初期日本語教室の受講者数19人、愛知教育大学リソースルーム教室27人の合計値で、ボランティアによる文法積み上げ学習の教室は正確な参加者数が計上できないため、目標値には計上していない。

委員：ボランティアによる文法積み上げ学習の教室も、一生懸命行っているのに、ルールを決めて参加者数に計上してもらえるとよい。

委員：親子日本語教室なども実施されているので、大人向けという表現を見直してほしい。

委員長：初期日本語教室への参加者はどのぐらいか。

委員：外国人学習者は10人前後、日本人ボランティアは15人程度である。対話型日本語教室への理解も進みつつある。

委員長：愛知県国際交流協会はどのような日本語教室を行っているか。

委員：個々のボランティアに任せて、それぞれが学習内容を決めている。名古屋国際センターは対話型教室へ変更したと聞いている。

委員：P.39、「05 市民に対するやさしい日本語の周知」について、国際交流イベントに参加しないとやさしい日本語を知る機会がないような記載内容に見える。SNS や Youtube などを通して、検索すればいつでも学習できるツールが複数あるとより良いと思うがどうか。

事務局：既存の SNS や Youtube など市民に周知できたらよいと考える。周知の方法については引き続き検討したい。外国人市民同士もやさしい日本語を使えるとよいと考える。

委員長：P.39、「04 職員に対するやさしい日本語の周知・研修」についての具体的内容はあるか。

事務局：今年も少しだけ3年目の市の職員に対してやさしい日本語の説明をする機会があった。来年度からは枠を取って研修を実施していきたいと考えている。

委員長：刈谷市が意欲を見せるためには、まず職員が多文化交流イベントに参加することが大切である。参加するとポイントが付くなどインセンティブを考えてもよいのではないかと。

事務局：インセンティブは難しい面もあるが、職員向けのポータルサイトでも周知して、広めていきたい。

- 委員：やさしい日本語研修を予定しているので、参加を検討してほしい。
- 委員：計画書は、やさしい日本語の概要版も作成してもらおうとよい。
- 委員：P. 42、「11 子ども・子育て家庭への支援」②外国人向け子育てサロンは、具体的にどう考えているか。0～3歳までの幼児がいる保護者で日本語ができない外国人にとってよい取組である。1ヶ月に1回あるとよい。豊田市や大府市では行われている。
- 事務局：現在は、日本人向けに行われているものを、外国人にも対応できるよう計画している。
- 委員：P. 42、「14 日本での生活の早期適応の支援」①外国人市民ウェルカムパックは、どんなものを考えているか。
- 委員長：昔は「ウェルカム風呂敷」というふうに言われていたものである。その地域の安い食材が買える店、外国語対応している医院などの案内が入っている。ニューヨークでは、ブロードウェイの招待券や遠方の家族に電話できるテレフォンカードが入っていて、ウェルカムの気持ちを示している。国際交流協会などでも、スポンサーを付けてそういったことを実施できるとよい。そうしたことを参考にして、外国人コミュニティにも協力してもらいウェルカムパックを作してほしい。
- 委員：P. 40、「07 市役所・各施設における通訳等」②通訳機器・アプリ、三者間通話、指さし会話シート等の整備・運用について、刈谷市はスマートシティ構想を掲げているので、それを踏まえて取り組んでほしい。
- 委員：外国人向けの施策は多いが、28人に1人が外国人になってきて、日本人に対しては、どうやって対応していくのか。日本人向けの対応マニュアルを考えてもよいのではないか。ワールド・スマイル・ガーデンーツ木（以下、ワールドデン）でも、日本人が外国人とあまりコミュニケーションを取れていないことがある。もっと深く交流できるように何かサポートが必要と考える。
- 委員長：大切な視点である。それぞれの立場から考えないと双方向にならない。
- 委員：P. 44、「17 学校における国際理解教育の推進」に関して、総合学習では楽しいイベントで終わることもあり、そこに保護者も巻き込んで充実したものにしていけたらよいと考えている。そのためにもこうした施策として掲げていただくことはありがたい。
- 委員長：子ども達なりにニュースを見て世界の現状を考えている。その気持ちを発言できるような場を作っていく必要がある。
- 委員：学校現場では、ALTなど外国や英語に触れる機会は増えている。
- 委員：ワールドデンでは、地元の中学生在が参加してくれている。ただ、照れもあって外国人との交流への躊躇が見られる。やさしい日本語、やさしい英語を教えてあげる、母国語のあいさつを学んでもらうというところから始めていけるとよいと考えている。農業指導をするという姿勢の日本人もいるので、交流がメインの目的として浸透するとよいと考えている。
- 委員：P. 46、「先進的取組の発信」というのはワールドデンで何かする必要はあるのか。ワールドデン以外の取組も発信していけるとよい。

事務局：ワールドデンも一つと考えているが、市が中心となって情報発信することを考えている。

委員長からもワールドデンに限らず、成果を市内外に発信してほしいとご意見をいただいている。

委員：ワールドデンでは、既にFacebookで、上手に発信されていると思う。

委員長：国際的な感覚をお持ちになってきたので、ぜひこれからも発信してほしい。

委員：ワールドデンに、もう一つホワイトボードをおいて、各国文化を教え合うようなことができるとうい。以前、ベトナムのお月見の紹介をしていたことがあった。

委員：楽しくやること、刈谷市に住んでよかったと思えることを大切にしていきたいと考えている。

委員：それぞれの国の文化紹介をすることで、気持ちが豊かになっている。

委員：高校生と外国人留学生をペアにして交流してもらっている。80歳の高齢者の方も楽しんでいた。

委員長：外部からの評価が、活動している人の喜びになる。インバウンドという面でも役立つ。

また、やさしい日本語の簡単なマニュアルを早くウェブサイトに載せるとよいと思う。

事務局：職員向けに作成したマニュアルはあるので、ウェブサイトに掲載できるものを検討して、掲載したい。

委員：P. 51、「近隣自治体との連携・協働」について、安城市に住んでいるので、第2次安城市多文化共生プランと見比べてみたが、共通点が多くある。同じ西三河地区（広域）で課題を捉えて、取組ができるとよいので、こうした内容の記載があることはよいと思う。刈谷市がこの地域のリーダーシップを取るとよい。市役所同士、市民同士、外国人コミュニティ同士で広域的取組ができるとよい。

事務局：衣浦東部広域行政圏（5市）、定住自立圏（4市町）に基づき、多くの部署で他市町と連携をしている。多文化交流フェスタでは、市外在住の外国人も多く訪れたように、外国人は市域に関係なく交流活動をしている。こうした交流イベントでは参加者を市内在住者に限らず、行えるとよいと思う。

委員長：多文化共生においては、行政区を越えたネットワークを作れるとよい。

（2）第2次刈谷市国際化・多文化共生推進計画の策定スケジュールについて

◇事務局が、第2次刈谷市国際化・多文化共生推進計画の策定スケジュールについて、資料2をもとに説明を行った

◇上記説明事項について、質疑等はなかった。

3. その他について

◇委員一人ずつ感想などを発言し、最後に委員長が以下のとおり伝えた。

委員長：なごやかな雰囲気でのよい委員会となっていると思う。国際交流は楽しいということが大切である。イベントでは「楽しい」、「ためになる」、「大切なことである」の3つの「た」を心がけることが重要である。多文化共生や国際交流は、1+1=3にもなることがある。多様な能力、言語、文化、宗教が違う人同士で学び合えるような多文化共生のまちづくりができるとよい。新しい10年間の計画では、多文化共生や国際交流をポジティブに捉えていけるとよい。皆様の意見や提案により策定されるこの計画は、刈谷市の政策の一つに位置づけられて、予算に計上され、実行につながるものである。

◇事務局から連絡事項を伝え、委員長が閉会した。

なお、委員からの提案により、計画名称を「第2次刈谷市多文化共生推進計画」とする。